

事例紹介

きたごう  
福井県勝山市立 **北郷小学校**

**ステープラ**で問題集を作ろう！



恐竜で有名な福井県勝山市にある北郷小学校では、まとめ用エディタ「ステープラ」を使った単元のまとめや、特別支援学級でのドリル利用など、eライブラリを目的に合わせて幅広く活用しています。

授業

ステープラを使って問題集を作成

5年生理科の「人のたんじょう」で、グループごとにステープラを使った問題集を作成しました。

★ **友達の作品から良いところを見つけよう！**

この日は5人1組のグループになり、これまで個人で作っていたステープラの問題をグループで1つにまとめ、教科書の流れに沿った問題集作りを行いました。

自分の作成した問題だけでなく、友達の作った問題に触れることで、**新たな知識や観点が増えて、学びが広がっていきます。**

子どもたちは友達の問題を見ながら、「この問題面白いから使っている？」と声を掛け合いながら問題集作りに取り組んでいました。



★ **らくらく操作で画像を挿入！簡単だからできる！**

「問題の意図を分かりやすく相手に伝えるには、写真や画像の有効活用がポイントです。そこでステープラの【画面とりこみ】を使うと、**画面が簡単に貼り付けられて手軽に画像入りの問題ができます**」と小林先生。子どもたちは短時間で画像入りの問題を何問も作っていました。

「ステープラは簡単にできる！」と子どもたちが理解しているからこそ、操作に負担を感じず、**調べる時間に集中できる**のだそうです。

★ **できた問題は来年の5年生へのプレゼント**

「人のたんじょう」の単元は、子どもたちが調べることで学べる分野のため、問題集作りを通して獲得した知識を蓄積していこうと考えました。そして**得た知識を、最後は自分の言葉でまとめられるようになって欲しい**という先生のねらいがあります。

そうして完成された問題集を次の5年生にも渡していき、更に改良を重ねていくことで、今回の問題集の**有用性が広がっていきます**。単元の特徴や学び方に合わせ、効果的にステープラを活用していました。



# 授業 まとめの10分はドリルで確認

授業の最後の10分で本時のまとめのドリル学習を行いました。

## ★ドリルで知識と調べたことの確認

授業の最後の10分間で同単元のドリル学習をし、内容の確認と定着を行いました。自分が調べたことをしっかり覚えているか、ドリル問題で確認します。

子どもたちは友達と競争したり、自分の履歴を確認しながら楽しく進めていました。

ドリルは子どもたちの「学習したくなる、考える」といった、学習に向かう姿勢を自然と生み出してくれます。



▲教科書を見ながら確認しています



## ★マイページで自分の頑張りが見える!

ドリルの問題を解き終わると、子どもたちはマイページから自分の学習状況を確認していました。

マイページでは自分の学習結果がコインやイラストで確認できるため、「今日は金メダルだった」「絵が変わった」など、隣同士で嬉しそうに話していました。

もらったメダルが銅メダルだったときも「次は金メダルにしよう」と次の学習への意欲に繋がっているそうです。

# 授業 特別支援学級でのiPad利用

## ★わかるようになりたい!と思えるアイテム

小林先生は、タブレットを使って支援学級の子どもたちにもドリルを活用しています。

「特別支援学級の子どもたちは、わかるようになりたい!自分も勉強したい!と思っている子が多く、そうした子どもたちにとって、繰り返し同じ学習ができることが一番大事なことです。そしてそれを実現できるのがeライブラリのドリルのメリットです」と小林先生。

手軽に繰り返しできるドリルが、支援学級の子どもたちの学ぶ力の育成に役立っているそうです。



## 特別支援学級・情報担当 小林 先生のお話



小林 一与 先生

eライブラリはドリルやステープラ、そして連絡メールと、多くの場面で活用しています。eライブラリは操作が簡単なので、子どもたちの“パソコンは難しい”という観念を払拭してくれます。

ステープラでは画像が簡単に取り込めたり、ドリルのような問題を手軽に作れるので、子どもたちは「すごい!」「できた!」と歓声を上げながら喜んで使っています。

今後はドリルとステープラを併用して、確かめのドリル+ステープラで「学んだことを友だちに伝えようクイズ」を作って、クラスで実践してみたいと思っています。自分の作った問題を発信する活動を通して、相手にうまく伝えるという練習にもなればと考えています。